



第165号 令和4年11月21日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

座談会



青少年×総合型クラブ×スポーツ少年団
「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part.2

特別企画 様々な講習会を通して、指導者育成に取り組むクラブ

▶▶▶ NPO法人うとスポーツクラブ(熊本県)

特別企画 行政と連携し、地域課題解決に向けた取り組みを行う
市連絡協議会



一般社団法人盛岡市総合型
地域スポーツクラブ連絡協議会(岩手県)



助成金情報 ▶▶▶ 詳細



お知らせ ▶▶▶ 詳細



バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会



座談会 青少年×総合型クラブ×スポーツ少年団



「青少年と考える運動部活動の地域移行」

Part.2



学校運動部活動の地域移行について、直近の中学校部活動経験者である高校生や大学生からの意見を聞くことで、子どもたちが求めている望ましい部活動の在り方について改めて考えることを目的としてオンライン形式の座談会を実施しました。

前回のメールマガジン9月号では「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part.1として、青少年の「運動部活動の地域移行」に対する印象や総合型クラブ、スポーツ少年団の取り組み事例などをお話いただきました。

今回はPart.2として、子どもたちのスポーツ環境やPart.1、Part.2を通しての総括などを掲載しています。Part.1については[こちら](#)をご覧ください。

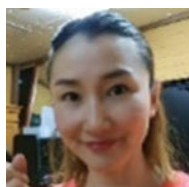
●座談会メンバー●



コーディネーター

小出 利一 氏

総合型地域スポーツクラブ全国協議会 常任幹事
総合型地域スポーツクラブ全国協議会 広報部会 部会長
NPO法人新町スポーツクラブ 理事長



渡辺 靖代 氏

スポーツリンク白川(岐阜県) クラブマネジャー
1999年から現在にかけて、運動部活動に関わる様々な人・団体と連携し、部活動の地域移行に取り組んでいる。



松原 三郎 氏

大沢ベースボールクラブスポーツ少年団(宮城県) 指導者
スポーツ少年団で20年間にわたり指導を行う。
現在は地元中学校の野球部と連携している。



真利谷 公佑 氏

森河内第1スポーツ少年団所属
大阪府リーダー会 会長(シニア・リーダー※)
大学3年生
部活動:テニス部



霧羽 優芽 氏

森河内第1スポーツ少年団所属
大阪府リーダー会 副会長(シニア・リーダー※)
高校2年生
部活動:剣道部

※リーダーとは、日本スポーツ少年団が育成している、各単位スポーツ少年団の活動における団員のまとめ役や、指導者と協力してチームを育てていく役割を担うスポーツ少年団員 <https://www.japan-sports.or.jp/club/tabid275.html>



●目次●

Part1

- 1) 運動部活動の地域移行に関する検討会議提言の概要について
- 2) 青少年にとっての「運動部活動の地域移行」に対する印象や期待
- 3) 総合型クラブの取り組み
- 4) スポーツ少年団の取り組み
- 5) 部活動連携に関する話を聞いた青少年の感想

Part2

- 6) 子どもたちにとって望ましいスポーツ環境とは
 - 生徒たちのスポーツ活動に対する保護者の望ましいサポートとは
 - 若い世代が地域に帰って来られる活動の場を残す
 - 青少年にとっての部活動の楽しさ
 - スポーツ少年団リーダーとして活動する中での苦労
- 7) 座談会に参加しての感想
- 8) 全体の総括

1)～5)は、メールマガジン164号(9月号)の「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part1に掲載しています。

【「青少年と考える運動部活動の地域移行」Part1】

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R4/MM164_zadankai.PDF

[Part1からの続き]

6)子どもたちにとって望ましいスポーツ環境とは

小出 スポーツ少年団は、平成元年ころは団員が115～116万人いましたが、今は56万人くらいまで減っています。私が高校生の時から高校生や大学生のリーダーを増やさないといけないと言われ続け、増えずに今に至っています。本来、スポーツ少年団は、中学生や高校生のためにつくった青少年団体ですが、必修クラブの制度化の影響で、徐々に小学生中心に変わってきました。今回の学校部活動の地域移行をきっかけに、総合型クラブだけではなくスポーツ少年団の若い人たちが、地域の中学生に声をかけて、こういうことをやろうよと言える環境ができていいのでは、と私は思っております。

ここからはフリーに意見交換しましょう。

生徒たちのスポーツ活動に対する保護者の望ましいサポートとは

渡辺 白川の例では、部活後のクラブの活動には必ず保護者の見守り当番というのがあります。クラブ活動開始時(17時)に地域の指導者が来れない時は、生徒だけの活動になってしまいます。そういった時に安全に活動をするため、保護者の見守り当番があります。これからクラブ活動の重要度が高くなると、見守り当番が少しネックになると思う保護者もいます。真利谷さん、轟羽さんのご両親は、お二人の活動にすごく協力的なのか、それとも親はノータッチで子どもだけでやっているのか、その辺を教えてください。

真利谷 単位スポーツ少年団(単位団)には父母会があり、保護者がスポーツ少年団の活動をサポートしてくれます。例えばキャンプの時は、父母会の方が食材の買い出しに行き、その間に子どもたちが野菜を切る準備をしたりします。全ての保護者が協力的というわけではありませんが、自分の親は協力的です。父母会の方たちにとっても助けられています。

轟羽 私の母も父母会に入っていて、行事などで手伝ってくれています。遠出になる時も父か母と一緒に車で連れて行ってくれます。ただ、父と母は共働きなので、平日は、そういうことが難しい時もあります。



松原氏

「合言葉はアワー・サンズ。子どもたちに注ぐ愛情はみんな一緒」

松原 親の会や当番があるから子どもにスポーツをやらせない、野球をやらせないというケースが実際にあります。

私は「アワー・サンズ(our sons=みんなの子どもたち)」という合言葉を大切にしています。保護者の方々も3年で入れ替わるので、一つのテーマとして、子どもたちに手を貸すのではなく、親の会は指導者のお手伝いをする集まりですよとお願いしています。「親の会として、お金は生まなくていいです、笑顔を生んでください、愛情を生んでください」というお話を、親の会があるときにいつも話しています。

来られない人が良くないのではなく、来る回数が多い親が偉いのではなく、子どもたちに注ぐ愛情はみんな一緒だね、というお話しをするようにしています。

私は、顧問の先生や手伝ってもらっているコーチには「何を言ってもいいですよ」と話しています。打ち方とか投げ方とかみんな違って当然。生徒たちにも言っています。「全部正解」って。その中でやってみて生徒がうまくなればそれでいい。というような考えを指導者の間でも共有しています。

小出 真利谷さん、靄羽さん、お二人とも大阪府リーダー会の会長、副会長という重責を担っています。お二人は地域の指導者になってもいいかなというイメージを持っていますか。

真利谷 なってもいいかなと思っています。楽しいし、これからも楽しくやっていきたいと考えているし、自分の楽しい経験を子どもたちに伝えたいです。指導者になれば、それがかなうのかなと思っています。深くは考えていませんが、このままいったら指導者になるな、ぐらいで考えています。

靄羽 真利谷さん達の行動がすごいと思っている立場なので、自分が指導者になることはまだ想像がつかないです。ですが、小さい子たちと接することが好きなので、この活動は続けていきたいと思っています。活動を続ける中で、今後指導者になるという選択も出てくると思います。

小出 真利谷さんは、テニスとスポーツ少年団の野外活動がメインです。テニスの指導者としても、そのように思っていますか。

真利谷 今までそんなふうに考えたことがなかったです。お話を聞いていて、おれテニスの指導者になるのかな、テニスうまくないけど大丈夫かな、そんな感じです。

若い世代が地域に帰って来られる活動の場を残す

小出 地域のスポーツって誰が支えていくの？となると、若い人たちに支える人が増えてくれないと、部活動が地域に移行されても、持続可能な形とは言えないですね。

渡辺氏

「町外に出た若い世代が時々でも帰って来られる活動の場を残すことで、若い指導者の育成につなげたい」



渡辺 白川町では27人の指導者に部活動の連携に関わってもらっています。自営業の方や、仕事の後に活動に間に合う公務員の方が多いです。若い世代に関わってもらうことは難しいのが現状です。白川町は高校も大学もないので、進学を機に町外に出てしまい、白川町に帰ってくる機会がありません。ただ、長期の休みを利用して実家に帰って来たときに母校に顔を出す高校生や大学生もいますので、指導してもらおうと「大学生が来た」と中学生のテンションが上がります。ずっと関わってもらうのが理想ですが、地域の現状をみると、月に1回とかでもいいので来てもらえる活動の場を残しておけば、懐かしんで来てもらえるのかな。将来的に若い指導者の育成につながるかどうか分かりませんが、活躍の場は残していきたいです。

小出 若い人たちに「気軽に帰れる場所が地元にありますか」と質問したときに、自信を持って「あります」と答えられる人は少ないかもしれません。



松原氏

「大人のエゴで体裁だけ整えても、子どもたちが一番の被害者」

松原 学校の枠を超えてソフトボールの指導をしたい人が隣町で教えたり、ブラスバンドを指導したくて自分の学校だけでなく隣町に行って指導したりとか、いろんな形があっていいと思います。

子どもたちが、やりたいスポーツをいかんなくできて、スポーツを通じて仲間との付き合いや頑張ることの大切さなどを学べる時間と場所を用意することが重要だと思います。部活動の地域移行については、大人のエゴで体裁だけ整えても、子どもたちが一番の被害者になってしまっては絶対に良くないというのが、私が一番言いたいところです。

小出 うちのバレーボール教室は複数の中学校から来ています。それがすごく楽しそうです。バレーボール教室は始めて21年経ちましたが、クラブで育った人が教えに来てくれています。「ここ(クラブ)に来るとほっとする」「一緒に体を動かすと気持ちがいい」と言ってくれます。

真利谷さん、靄羽さん、大阪府全体を見るのは難しいでしょうから、自分の地域を考えたときに、例えばテニスを、あるいは剣道を、学校という枠組みから外れてしまったとすると、気軽にテニスまたは剣道をしに行こうかなという場所がありますか。

真利谷 地元の自分が出た中学校であれば、気軽に行って教えることができると思いますが、それ以外のどこかのテニスコートで教えてくださいと言われても、抵抗感があるし、最初は行きづらいですね。

小出 やはり自分の学校が一番気楽ですよ。

真利谷 そうですね、懐かしいなという感じで行けると思います。

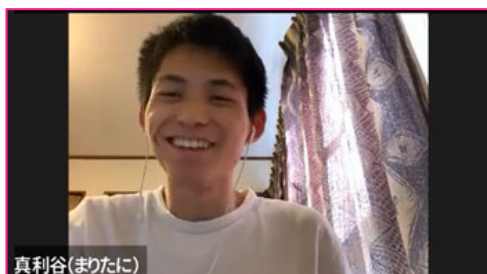
小出 靄羽さん、いかがですか。

靄羽 私は小学生の時は警察署を借りて剣道をしていました。そこでは警察官の先生の方に教えていただくので、私が教える立場になることはありませんでした。

小出 教えるということではなく、自分がやってきた場所に、気軽に行って、「今日は混ぜてください」という雰囲気があれば行けるのでしょうか。

青少年にとっての部活動の楽しさ

松原 部活動でテニスと剣道をお二人はやられてますが、テニスの楽しさ、剣道の楽しさって何だと思いますか。



真利谷氏
「部活動というのは人との交流を広げられるいい機会」

真利谷 まずは、友達や後輩、先輩とテニスの練習をして、その中でお互いを高め合い、自分が強くなっていく達成感を味わえる楽しさがあります。また、そこで生まれる友情とか、会話とか、遊びに行ったりとか、人との交流も大きいと感じます。他校に行って試合をして友達になった人もいます。部活動というのは人との交流を広げられるいい機会でもあります。

霧羽氏
「みんなで団結して自分がどういう役割をしたらいいか考え、みんなで高め合えるときが一番楽しい」



霧羽 剣道の試合方式は個人戦と団体戦です。個人戦は自分一人なので勝っていったら楽しいけど、団体戦(5人)の場合は5人が力を合わせないと勝てません。一人でもやる気がないとか、一人だけやる気があるという状況では、すぐに負けてしまいます。みんなで団結して自分がどういう役割をしたらいいか考えたり、みんなで高めあったりするときが一番楽しいです。

松原 スポーツって楽しまないとだめだと思います。楽しみ方って結構幅があり深さがありますので、指導する側が楽しさを感じる状況をつくってあげることが必要だと思います。そのような考えを持った指導者が指導にあたる、といった環境を作ることが必要なのかもしれない。

スポーツ少年団リーダーとして活動する中での苦労

渡辺 いろんな環境を整えるのが大人の役割で、活動の主体は子どもたちです。リーダー会の会長と副会長をやられて、団体の中で熱を持ってやっている子と、ちょっと冷めている子とか、温度差があるときのまとめ方はどうなのでしょう。困ったことはありますか。こうやったらうまくいったというようなエピソードもあれば、それぞれ教えてください。

真利谷 小学生を対象にキャンプファイヤーをした時に、その中で何人かは「何だキャンプファイヤーか」という感じになることがあります。そんな時は、みんなを楽しませるためにレクリエーション活動をしますが、自分が楽しんでいる姿を見てもらって、それを真似て楽しんでもらうのが、一番子どもたちを楽しませやすいのかなと思います。後で子どもたちが「楽しかった」とか、見ていた指導者から「今までで一番良かったね」と言ってもらったことがありました。自分が楽しんで、なおかつ、子どもを楽しませないといけないし、子どもたちのことを考えて自分のテンションを上げていけないといけないと感じました。

霧羽 子どもたちの中でグループができると、どうしても一人になる子が出てしまいます。私が一人になった子と一緒にご飯を食べようとするんですが、「一緒に食べよう」と言っても「おれはいいや」という感じになってしまいます。そういうときに自分がどう行動したら、その子は仲間外れにならずに、みんなと一緒にすることができるのかという点で、まだ解決策がなく苦労しています。

小出 リーダーになると、みんなが通る道ですね。真利谷さん、リーダー会の会長として大阪府全体をまとめるにあたって何か苦労している点がありますか。

真利谷 年々人数が減少していることに一番苦労しています。そもそもスポーツ少年団に入る子どもが少ないし、リーダーの数も減っています。リーダーは楽しいということを伝えたいのですが、伝えるためにどのようなことをすればいいのかなというのが課題です。

小出 真利谷さんの悩みは、他の都道府県のリーダー会の会長も同じだと思います。

7) 座談会に参加しての感想



松原氏

「学生のお二人は、勉強だけでは学ぶことができない、とても貴重なものを吸収している」

松原 コロナでなければ、とても素敵なお二人と実際に会って思いを感じ取ってみたいかったです。一生懸命、前向きにテニス、剣道に取り組んでいるだけでなく、リーダーの方でもいろんなことを吸収していると強く思いました。それは、勉強だけでは学ぶことができない、とても貴重なものだと思います。お二人とも、さらに頑張ってください。

渡辺氏

「若い世代のリーダーとして、子どもたちが集える場所を地域に残し続けてほしい」



渡辺 今回は中学の部活動がテーマでしたが、小学生の時にいろんな経験をした子どもが中学生、高校生になり大人になっていきます。今回リーダーの活動を聞いて、小学生にとってとても大切な居場所をつくっていると感じました。その活動を人数が少なくても大事にしていってほしいです。子どもたちが集える場所というのを地域に残し続けていくことは、これからの地域全体の課題だと思います。若い世代のリーダーとしてお二人に頑張っていていただき、将来、大人になったときにも指導者として活躍して欲しいと期待しています。



轟羽氏

「学校の先生以外の新しい方の指導を受けることはとても嬉しい」

轟羽 私の中学は中高一貫校で、地元の人との交流が少なく、スポーツ少年団でしか地元の人と話す機会がないので、この活動を広げていきたいです。学校の先生以外の新しい方の指導を受けることはとても嬉しいし、とても勉強になるので、それを早くやってくれたら嬉しいなと思いました。



真利谷氏

「次の世代の子どもたちに、どのようにして充実した環境をつくっていくか考えたい」

真利谷 大人の方々が子どもたちについて真剣に考えてくれているんだなというのを改めて強く感じました。自分たちも、その思いを引き継いで、次の世代の子どもたちに、どのようにして充実した環境をつくっていくか考えたいです。また、スポーツを通じて心を豊かにしていけたらと思います。

8) 全体の総括

小出 みなさん、ありがとうございました。われわれの世代が不得意なことを得意とするのが真利谷さんと靄羽さんの世代です。SNSの発信など間違いなく、お二人の世代の方が能力は上です。歳が上の人たちが全ての能力が高い時代ではないので、年齢に関係なく地域としてどうするかを、皆さんに知恵を出してもらっていかないと、うまくいかないでしょう。

小出氏

「地域の中学生在が楽しくスポーツに親しめる環境を、各地域で創設すべき」



部活動の地域移行は、学校の部活動を地域に任すことでは収まりません。地域にいる中学生が楽しくスポーツに親しめて、真利谷さんと靄羽さんが感じたような印象に残るような活動に、地域全体で取り組まないといけないと思います。大人になっても地元で自分がやりたい種目に取り組めるような環境にしていけるためにも、各地域の知恵の出し合いだと思います。

その時に必ずキーパーソンになって主役として真ん中にいてもらわないと困るのは、中学生だったり高校生なんです。ですので、若い世代の意見を、大人が謙虚に受け止めることで、楽しい地域、楽しい思い出があるから帰ってきたいと思える地域になると思います。

スポーツ少年団には元々、団員綱領、指導者綱領があって、この綱領に近づけた活動にしていれば、そのような地域になるのだと思います。また、人材育成システムも、しっかりしたカリキュラムが整っています。私もスポーツ少年団リーダーとしてやってきた身からすると、総合型地域スポーツクラブだとか、スポーツ少年団だとか、そんな枠組みはどうでもいいから、思いがある若者が集まって「地域の活動としてスポーツや文化活動をするから、みんな一緒にやろうよ」と声かけやすい環境ができれば理想的だと思います。



小出氏

「学校部活動の地域移行は、地域と学校が一つにまとまって何かを動かすチャンス」

学校という枠組みが外れると、日本は気楽にスポーツに親しみ、体を動かす環境がなくなってしまう。日本は20歳代前半から40歳代までのスポーツをしている人口比率が低くなっています。働き方改革の問題もありますが、気楽にできる場所が少ないからだと思います。だから、今回の学校部活動の地域移行は、地域と学校が一つにまとまって何かを動かすチャンスでもあって、プラス方向にしてくれたら嬉しいです。

ここに集まった4名の方と今後も手をつないで、それぞれの地域がよいスポーツ環境となってくれたら嬉しく思います。



関連リンク(日本スポーツ協会HP)

●地域課題解決に向けた取組を行うクラブ紹介動画

[学校部活動との連携]

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1351.html#01>

●総合型クラブメールマガジン「部活動」関連バックナンバー

<https://www.japan->

[sports.or.jp/local/tabid1348.html?keyword=%e9%83%a8%e6%b4%bb%e5%8b%95&cmid=6449](https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1348.html?keyword=%e9%83%a8%e6%b4%bb%e5%8b%95&cmid=6449)

特別企画

様々な講習会を通して、指導者育成に取り組むクラブ

NPO法人うとスポーツクラブ < 熊本県宇土市 >

活動基盤・活動環境をより充実させ、持続可能な総合型クラブの運営を目指すには、効果的な事業計画を企画・立案できる人材が求められるとともに、常に先を見据え、異業種・異業態も含めた広い視野と多様性を持つ人材の育成・確保をしていくことが重要です。

そこで今回は、人材育成に取り組むクラブについてご紹介します。

1 クラブ概要

48教室を開催

設立： 平成13年4月1日

種目会員数：787名（11月1日現在）正会員数：42名

開催教室： ハンドボール、バスケットボール、バレーボール、ソフトバレーボール、サッカー、フットサル、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、バドミントン、バウンドテニス、卓球、陸上、アーチェリー、グラウンドゴルフ、ボウリング、柔道、相撲、テコンドー、社交ダンス、チアダンス、フラダンス、エアロビクス、3B体操、健康太極拳、トランポリン、健康増進サークル、ボール遊び教室など48種目

指導者数： 約100名

3事業を推進

NPO法人うとスポーツクラブは、スポーツ教室部、施設管理部（指定管理者）、イベント企画部の3つの事業を行っています。スポーツ教室は、サークル（楽しむ）、教室（学ぶ）、アカデミー（有資格によるハイレベル指導）、チーム（小中学校部活動の社会体育化への対応）など4つのカテゴリーに区分され、それぞれのニーズに合わせたプログラムで実施しています。



ecowin宇土アリーナ（宇土市民体育館）内のクラブ事務所には、スポーツ教室の事務局担当者1名とゼネラルクラブマネジャー、サブマネジャー兼施設管理部長が中心となって業務を行っています。

スポーツ指導現場（中学生）



2 取り組みの内容

【スポーツ指導者育成】

多数の各種「指導者講習会」を実施

当クラブの指導者は約100名にのぼります。元々、市内で活動していた各クラブやサークルが、合流して当クラブが結成された経緯があります。その当初の指導者たちが、新旧入れ替わりながら今に至っています。設立当初から人材の重要性を認識しており、年数回の“指導者講習会”を実施してきました。クラブ単独主催の場合は、クラブ内指導者と会員が対象です。市との共同開催時は、外部の指導者も対象となり、クラブ外指導者への広報は市が行っています。

以下は、これまで行った講習会の一部です。おおよそですが、各講習会には20～30人が参加しております。

- 救急法講習会
- 熱中症予防
- テーピング講座
- ストレッチ/体幹トレーニング
- 理学療法士が話すスポーツ指導者に知ってほしいスポーツ整形リハビリテーションの話
- 指導者として知っておきたい栄養講座
- メタボリックシンドロームの概念と予防および対策方法
- スポーツクラブにおける指導者
- スポーツの現場から指導のポイントについて
- 初級・中級・上級者への指導の考え方
- リーダーシップ研修
- 指導者同士のグループディスカッション
- 指導におけるリスクマネジメント
- スポーツ指導者のためのガイドライン
- ジュニアの育成と指導の仕方について
- メンタルトレーニング
- オリンピック出場・私のスポーツ人生



指導者講習会(オンライン)



救急救命講習会

主に外部講師を招き講習会を実施

外部の講師をお招きするケースが一番多いですが、時には筆者(当時スポーツ教室部長)も登壇しました。令和3年からは、クラブと宇土市教育委員会、宇土市体育協会との共催にてスポーツ指導者研修会を実施しております。平成30年からは、内容が充実している熊本県地域スポーツ指導者講習会へも積極的に参加しております。過去の種目ごとの会員数の増減を見てみると、その種目の指導者による影響も大きいと考えており、継続的な育成の必要性を再認識しています。

また、特に小中学生期の子どもたちへの過度な指導による不祥事や事件がマスコミでも取り上げられている現状を踏まえ、ジュニア期のスポーツ指導についてはリスクマネジメントの観点からも十分に気をつけて指導者育成を行っていかねばならないと考えています。

【イベント企画】

参加者と運営スタッフが共に楽しめるイベントー継続の秘訣

イベントの企画に関しては、主に正会員から成るイベント企画部で計画・立案から実施までを行っています。日頃は様々な職業をお持ちの方々が集まり、その得意分野やスキルを生かし、様々なアイデアや意見を持ち寄ってイベントをつくり上げています。また実施にあたっては宇土市スポーツ推進委員の方々のお力もお借りしています。

毎年行っている恒例イベントとしては、“宇土市民健康スポーツフェスタ”(スポーツ体験教室)や“わくわくスポーツDay”室内運動会や史跡散策(ウオークラリー)があります。

参加者だけでなく、イベント企画部員やスポーツ推進委員、その他運営スタッフ全員も楽しめるイベントにすることが、継続して実施していける秘訣と考えています。



イベント前のスタッフ打合せ
(わくわくスポーツDay)

【事務局/職員】

積極的に公式LINE等の新ツールを導入

事務作業の効率化を促進するために、積極的に新しいツールの導入を行っています。活動プログラムのオンライン化、公式LINEの導入、Formsアンケート、新経理システム、イラストレーターなどです。職員の中にはそれぞれの得意分野があり、それらを生かす形で積極的に活用・導入しています。

3 取り組みの効果

【スポーツ指導者育成】

講習会がクラブ方針を伝える機会に

種目によっては各協会（中央競技団体）主催の講習会などもありますが、そうでない種目では、クラブが主催する講習会の内容が新しい情報として活用いただけているのではないかと思います。また、クラブが主催する指導者講習会はクラブ側の方針や指導に対する考え方をお伝えする良い機会にもなっています。

内容のマンネリ化避けるため、幅広い分野から講師を招へい

ただ、当クラブの種目数は非常に多く、多世代かつ多種多様であることから、実施コンテンツに興味がない場合は参加されないケースも少なくありません。また、当初の講習会の内容は毎年同様となっておりましたが、近年はマンネリ化を避けるため各方面から幅広い分野の講師をお招きしてきました。今後の課題としては、指導者のニーズをヒアリングなどで確認し、コンテンツに反映していくこと、また、ポイント制などの体系的な講習会の仕組みづくりを行い、講習会への参加モチベーションを上げたいと考えています。

特に今後行われる中学校部活動の社会体育化への対応として、指導者育成は非常に重要です。教育委員会や学校側と情報交換を密にし、必要な対応をとっていきます。

【イベント企画】

イベント実施で人材発掘の必要性を再認識

今年もイベント企画部長の強いリーダーシップのもと、定期的な打ち合わせを行いながらイベントを継続実施しています。ただ、イベント実施には多数の人員が必要です。今後も今と同じように人材リソースを確保できるとは限りません。モチベーション高く積極的に参画していただける人材を多数確保するためにも、クラブ内外問わず、日頃より人材の発掘に感度を上げておく必要があります。また、参画した人の満足感や達成感を得ることができるよう予算や支援をすることが必要と考えています。

【事務局/職員】

大きな成果生まれた公式LINEでの情報共有

特に公式LINEを使った情報共有は大きな成果を挙げており、今後は宣伝やPRなどに積極的に活用していきたいです。また、Formsアンケートなどのツールも便利さゆえに業務改善に大きく寄与し始めています。そういった各種ツールを扱えるスタッフをもっと増やしていきたいと考えております。

4

会員数の回復が喫緊の課題

クラブも設立から20年が経ち、また、少子化やコロナ禍も相まって会員数は減少傾向です。会員数の回復は喫緊の課題です。そのためにも、どこにフォーカスして取り組んでいくかが重要になりますが、まずは、コロナ後の経済活動・スポーツ活動の急激な回復を見越し、種目やイベントのリニューアルや準備、PRのタイミングを逃さず行います。

学校部活動の地域移行を見据え、行政・学校と連携を

次に、今後行われる学校部活動の社会体育化への対応です。これに向け、まずは指導者の確保を行い、指導者育成については行政や学校と連携しながら行っていきます。また、SNSや新しいツールを積極的に導入し、広報宣伝活動に生かしていくためにも、勉強会などを通じ、ツールを扱える人材を増やしていきたいと考えています。

(NPO法人うとスポーツクラブ 理事長 岩永 孝博)

クラブプロフィール

設立年月日 平成13年4月1日(平成16年11月22日法人登記)

所在地 熊本県宇土市

運営 会員数787名(令和4年11月現在)、予算規模約6,000万円(令和4年度)

特徴

- サークル(楽しむ)、教室(学ぶ)、アカデミー(有資格によるハイレベル指導)、チーム(小中学校部活動の社会体育化への対応)など4つのカテゴリーで合計約50種目のスポーツ教室が活動中
- 体育館、武道館、グラウンド、テニスコート、プール、キャンプ場などの社会体育施設を指定管理者として受託・運営
- 市内小中学校のグラウンドや体育館の貸し出し管理も行っている
- イベント事業としてスポーツ大会やスポーツフェスタなども企画・実施

連絡先

〒869-0432 熊本県宇土市旭町504 ecowin宇土アリーナ
TEL 0964-23-3493 FAX 0964-23-5148
URL <https://uto-sc.jp/>
E-Mail info@uto-sc.jp



特別企画

行政と連携し、地域課題解決に向けた 取り組みを行う市連絡協議会

一般社団法人

盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ＜岩手県盛岡市＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、様々な団体と連携し、充実した活動を行っている連絡協議会をご紹介します。

1 協議会の概要

構成団体は5クラブ 連携団体として2クラブ

本協議会の正式名称は、「一般社団法人盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」で、設立時からメンバーは「もりスポネット」と略称で呼んでいましたが、周りからはどんな団体なのか見えづかったようです。最近、少しは行政等になじまれてきた感があります。

「もりスポネット」は、設立当時に盛岡市にあった5つの総合型地域スポーツクラブ（NPO法人まつぞのスポーツクラブ、コムスポクラブ東厨川、NPO法人いはとーぶスポーツクラブ、一般社団法人Bondsスポーツクラブ、見前地区体育振興会見前地区総合型スポーツクラブ）が構成団体となって平成28年12月に一般社団法人として設立されました。現在はNPO法人3DsportsとNPO法人たますぽの2団体が連携団体として加わっています。

設立の目的は、各クラブに対する日本スポーツ振興センター（JSC）の助成金が無くなった後も盛岡市における総合型地域スポーツクラブが生き残るためにはどのようにしたらよいかという緊急課題に対して知恵を出し合うためでした。さらに、行政等から政策課題として地域の健康や福祉のニーズに対応できる団体を探しており、その受け皿として期待されていたことも大きなきっかけでした。

市立体育館を事務所として活用

「もりスポネット」は、理事長・事務局長（まつぞのスポーツクラブクラブマネジャー、現在岩手県のクラブアドバイザー）を核に各クラブの代表が理事メンバーとなり運営しています。令和2年4月には、行政や盛岡市立盛岡体育館の指定管理者である公益財団法人盛岡市スポーツ協会と協議を重ね、ようやく同体育館に事務所を構えることができました。一時、事務局担当の職員を配置していたのですが、現在は財政難等で配置できなくなりました。



令和2年の事務所設置時は、盛岡市より盛岡体育館の旧印刷室の利用について「行政財産使用許可申請書」を提出し、使用料100%減免の使用許可を得て、法人事務局として活用していました。当時の事業は盛岡市から介護予防教室事業、健康づくり習慣化事業を受託、盛岡広域振興局から広域圏内の総合型地域スポーツクラブ基盤強化事業も受託しており、臨時職員1名(週16~20時間程度)を配置して事業の推進を行っていました。現在は、盛岡市の2事業は継続しておりますが、振興局の委託事業は無くなり臨時職員の設置費までは捻出できない状況にあり、連絡協議会のミーティングおよび事務作業等で活用している状況です。

クラブ間の情報共有と拠点施設の確保等が主な活動

活動内容としてはクラブ間の情報共有に加え、企業や行政等からの事業の依頼や相談が多くなっています。また、盛岡市内の総合型地域スポーツクラブでは拠点施設を持っていないクラブがほとんどで、拠点施設の確保として市内にあるスポーツ施設等の指定管理者を目指して研修や多方面との交渉を進めています。残念ながら行政に明確な方向性が見えず、なかなか進展していないのが現状です。

2 行政と連携し各種事業を提案 健康づくりガイドも作成

基本的に、「もりスポネット」の加盟クラブが自分たちの資源と実施可能な時間と内容を基に、地域課題や行政のニーズに対して事業提案を行い、実施主体として連携してきました。特に、総合型地域スポーツクラブの認知度が上がることを主眼に取り組んできました。以下、令和3年度に行った内容をご紹介します。

① 元気はなまる筋力アップ教室事業の受託

この事業は、盛岡市保健福祉部長寿社会課が、介護予防を目的とした教室を開催するために「もりスポネット」と協議し、基本的な事業スキームをつくりあげたものです。内容は概ね65歳以上の市民を対象にした介護予防のための体操や講話、レクリエーション教室などです。



② 「盛岡市健康づくり習慣化推進事業」の受託(盛岡市スポーツ推進課)

本事業は、「もりスポネット」の加盟クラブがそれぞれの特徴を生かし、withコロナ、afterコロナも見据えて、働く世代や親子等の市民を対象とした健康づくりやスポーツに触れ合うきっかけづくりとなる体験会などを提案した取り組みです。新型コロナウイルス禍の推移を見極めながら加盟クラブと協議し、13の教室・体験会、働く世代や親子を取り込むための9つの事業、4つの動画プログラムを実施しました。

<実施事業>

●健康づくり講座の実施



●イオンモール盛岡南店・イオンモール盛岡店における体験会(残念ながら感染拡大の影響により中止)

●働く世代や親子を取り込むための事業実施



●イベント等と連携した動画配信セミナーの開催

●WEBサイトやSNS等による情報発信

③ 「盛岡の健康づくりお役立ちガイド」の制作

2年前に盛岡市交流推進部長から、予算化していないが「市民が運動やスポーツができる環境的ガイド」がほしいという話があり、「もりスポネット」が“世界につながるまち盛岡”市民会議の市民協働推進事業助成金を活用して作成しました。盛岡市プレスリリース(令和4年3月24日交流推進部スポーツ推進課)に「市内に拠点を置く総合型地域スポーツクラブの活動や、市有スポーツ施設を活用して指定管理者が実施する各種健康づくり事業などが掲載されており、その事業がどんな方を対象としているか、アイコンで分かりやすく検索できるようにになっています」と掲載されました。



運動やスポーツをやってみたいと考えているあなたへ

どこでなにができるの? → このガイドは健康スポーツの窓口です!

詳細はQRコードで検索!

このガイドは、盛岡市内で運動やスポーツができる公的な団体や施設のプロگرامをご紹介します!

対象は下記アイコンで分けています!

自分に合った健康づくり教室を見つけよう!

もりスポネット
(一社)盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

2 盛岡の健康づくりお役立ちガイド

身近な地域で気軽に参加! 総合型地域スポーツクラブをご紹介します

「総合型地域スポーツクラブ」は、身近な地域でスポーツに親しむことができるスポーツクラブです。2003年に国のスポーツ振興基本法で定められ、2007年に国が定めるスポーツ振興基本法に基づき、国が定める基準を満たしているスポーツクラブです。対象は以下の通りです。

- 国が定める基準を満たしているスポーツクラブ
- 国が定める基準を満たしているスポーツクラブ
- 国が定める基準を満たしているスポーツクラブ

このガイドは、盛岡市内で運動やスポーツができる公的な団体や施設のプロگرامをご紹介します!

特定非営利活動法人 まつぞのスポーツクラブ

盛岡市西側通2-15-4 盛岡市ニッポンビル内
TEL / FAX / 019-843-8080
E-mail / matsuono@nippi.co.jp
HP / http://matsuono.net

● テニス ● バドミントン ● バレーボール ● サッカー ● フットサル ● バスケットボール ● その他

特定非営利活動法人 いーはとーぶスポーツクラブ

盛岡市東側通2-15-2 盛岡市ニッポンビル内
TEL / FAX / 019-843-8080
E-mail / iebto@nippi.co.jp
HP / http://www.iebto.jp

● テニス ● バドミントン ● バレーボール ● サッカー ● フットサル ● バスケットボール ● その他

特定非営利活動法人 Bendaスポーツクラブ

盛岡市山内通2-15-15 (D407)
TEL / FAX / 019-843-8080
E-mail / benda@nippi.co.jp
HP / http://benda-sports.club.jp

● テニス ● バドミントン ● バレーボール ● サッカー ● フットサル ● バスケットボール ● その他

3 盛岡の健康づくりお役立ちガイド

※同ガイドは、末尾の「協議会プロフィール」のHP: <http://www.morispo.net/> から確認できます。

各クラブ担当者の意識づけにつながる効果も

元気はなまる筋力アップ教室は、毎年公募型プロポーザルにかけられ、その書類の準備等でかなりの時間を費やされています。事業スキームを担当課と連携して構築したのに何か解せない感じですが、現実として市内を網羅するこの事業を「もりスポネット」の加盟クラブでカバーするにはまだ力不足なのも事実です。この事業に関わることによって自分たちの現状やレベルを認知でき、また各クラブの担当者にとってはプログラム内容の拡充に向けた意識づけがなされています。

事業を提案することでスキルの向上に

盛岡市健康づくり習慣化推進事業は、実施内容は「もりスポネット」の提案であり、自分たちの資源を活用しながら、どのようなことが実施可能かなどを検討し提案できることが各クラブにとって刺激的な効果があります。地域課題がクラブの課題とも連動し、どのようなプログラムや事業が必要なのか考える良いきっかけになっています。また、今までにない動画作成や、SNSによる情報発信など、さらなるスキルアップにもつながるという効果がありました。この連携事業を通して盛岡市におけるスポーツ振興の環境づくりに、「もりスポネット」が関わることで、総合型地域スポーツクラブの役割とその必要性をアピールできたと感じています。

ガイド作成によりクラブ・行政双方に良い刺激

また、「盛岡の健康づくりお役立ちガイド」の作成の取材等を通して盛岡市の運動やスポーツをする環境の現状がかなり見えてきました。各クラブは地元の現状に関してある程度把握していたつもりですが、市内における地域性や共通的な課題に気づかされ、まさに総合型地域スポーツクラブの存在意義を再確認することができました。盛岡市にとってもこのガイドの作成は良い刺激になったようです。

このようなクラブの資源を活用して行政や企業等と連携することは各クラブにとっても刺激的ですし、さらなるレベルアップにつながっています。また、これらの事業から受け取る収入は多少でもクラブの財源となっているのも大きな効果です。今後も本業との連携バランスを取って進めていければと考えています。

4

次のステージの方向性を求めて今後も活動

課題抱える地域社会 協議会の役割を再認識

今回、「もりスポネット」の活動を振り返ることができ、改めて設立の目的とその役割を再確認できました。市内のクラブの存続をみんなで考えることからスタートし、加盟クラブが欠けることなく、さらに新たなクラブも登場してきています。少子高齢化やコロナ禍で地域社会が不安定な状況の中、地域性が異なる各クラブも多くの不安を抱え活動を続けています。その中で、さらに「もりスポネット」の役割が重要となってきたと痛感しています。

地域版指導者バンクの構築にもチャレンジ部活の地域移行

今後の展望ですが、組織自体に専従スタッフを配置し、協議会をより発展的な新たな持続可能な組織として改組していくべきと考えています。また、今まで続けてきた行政との連携を進めながら、より地域の認知を深め、今後の学校部活動の地域移行に向けた環境づくりに貢献していきたいと思います。特に、地域版指導者バンクを「もりスポネット」を母体に構築することにチャレンジしていきたいです。

(一般社団法人盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 代表理事 浅沼 道成)

クラブプロフィール

設立年月日 平成27年9月17日(平成28年12月20日法人登記)

所在地 盛岡市

加盟クラブ NPO法人まつぞのスポーツクラブ、コムスポクラブ東厨川、NPO法人いーはと一ぶスポーツクラブ、一般社団法人Bondsスポーツクラブ、見前地区体育振興会見前地区総合型スポーツクラブ

連携クラブ NPO法人3Dsports、NPO法人たますぼ

特徴
・総合型地域スポーツクラブの将来のビジョンを求めた緩やかな連携組織
・盛岡市の生涯スポーツ環境を担っていく役割があると自負している組織

連絡先 〒020-0066 盛岡市上田3-17-60 盛岡体育館内

TEL/ FAX 019-613-3400

URL <http://www.morispo.net/>

E-Mail morispo.net@gmail.com



代表理事 浅沼 道成





助成金情報

ノエビアグリーン財団 2022年度助成事業

[実施団体] (公財)ノエビアグリーン財団

日本を代表するジュニアスポーツ選手の育成、また、心身ともに健全な青少年の育成に寄与することを目的として、一般公募による助成活動を実施しています。

[申込期間・方法] 2022年12月1日(木)9:00～2023年2月28日(火)正午12:00

団体と個人で応募できます。電子申請サポートシステムにより応募を受け付けます。

<https://www.noevirgreen.or.jp/grants/index.htm>

ヨネックススポーツ振興財団 2023年度助成金

[実施団体] (公財)ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業(全スポーツ競技)

全てのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。

[申込期間・方法]

前期 対象期間 : 2023年4月1日～9月30日および2023年度の年間を通した事業

Web申請開始 : 2022年10月11日10:00

一次締め切り : 2022年11月15日17:00

最終締め切り : 2022年12月20日17:00

審査結果通知 : 2023年3月1日頃(予定)

後期 対象期間 : 2023年10月1日～2024年3月31日の事業

Web申請開始 : 2023年4月3日10:00

一次締め切り : 2023年5月15日17:00

最終締め切り : 2023年6月20日17:00

審査結果通知 : 2023年9月1日頃(予定)

2023年度よりWeb申請に変更となりました。詳しくは、以下のページをご確認ください。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/josei.html>



お知らせ

日本スポーツ協会情報

「令和4年度スポーツ現場におけるハラスメント防止シンポジウム」開催のお知らせ

本シンポジウムは、誰もが安心してスポーツが出来るよう、スポーツ現場からハラスメントを根絶することを目指し、指導者、競技者、支援者等、スポーツ現場に関わるあらゆる者がハラスメントの考え方や実情、防止に向けた環境整備について理解を深めることを目的として開催いたします。

集合とオンラインのハイブリッド開催のため、ご希望の参加形態でご参加ください。

指導者、競技者等、スポーツに関わる皆様のご参加を心よりお待ちしております。

●開催期日：令和4年12月4日（日）13:30～17:00

●内容：テーマ「ハラスメントのないスポーツ現場を目指して」

◆基調講演（60分）

講師：柏野牧夫氏

（NTTコミュニケーション科学基礎研究所フェロー／東京大学客員教授）

◆シンポジウム（120分）

出演者：宮嶋泰子氏（一般社団法人カルティベータ代表理事）

伊藤華英氏（一般社団法人スポーツを止めるな理事）

小川良樹氏（下北沢成徳高校バレーボール部監督）

相馬浩隆氏（日本スポーツ協会コーチデベロッパー養成トレーナー）

※詳細は、下記リンク先の開催要項をご確認ください。

●開催形態：集合形式とオンライン（Zoomウェビナー）の併用開催

●定員：集 合 100名（会場：JSOS14F岸清一メモリアルルーム）

オンライン 300名

※いずれも先着順

●参加料：4,400円（集合参加、オンライン参加とも同額）

※高校生以下とその保護者は無料です。ただし、保護者が公認スポーツ指導者資格の更新研修を希望される場合は有料となります。詳細は開催要項をご確認ください。

●申込期間：令和4年11月11日（金）～令和4年11月25日（金）

●開催要項・申込方法等：下記リンク先をご確認ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/women/tabid1383.html>

<備考>

・本研修会の参加により、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります（一部の資格を除く）。詳細は開催要項をご確認ください。

<本件に関する問合せ先>

【シンポジウムの内容について】

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 国内課

TEL: 03-6910-5811 Mail: woman@japan-sports.or.jp

【日本スポーツ協会指導者資格の更新について】

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツ指導者育成部 活動推進課

※指導者マイページメニュー内の「Q&A・お問い合わせ」内のフォームからお問い合わせください。